



東北福祉大学 仏教専修科

 TOHOKU FUKUSHI UNIVERSITY



「実学仏教」の学び

東北福祉大学

学長 千葉公慈

学長メッセージ

東北福祉大学は、豊かな人間関係を通して人類全体の福祉の理念、すなわち幸福な生活を実現するための学問的真理を探究し、その知識と技術を学修する場です。明治8(1875)年、本学の前身である宮城県曹洞宗専門学支校の創立から歴史を重ねてきた本学は、現在「福祉」「マネジメント」「教育」「保健医療」の分野にわたる4学部9学科を擁する大学にまで発展を遂げました。

そして令和7(2025)年、学園創立150周年を迎える本学は、新時代の200周年へ向けて、さらに誇り高き大学へと展開しようとしています。すなわち曹洞宗の教えを教育の理念に掲げて、創立以来のゆるがなない禅の教えを基盤とする「行学一如」を建学の精神と仰ぎ、真の福祉社会の実現を目指して、これからも時代の要請に応じてゆく所存です。

変の時代を越えて、これからの曹洞宗寺院はどのような役割を果たしてゆくべきなのでしょうか。

仏教専修科の教育には、その答えがあります。本課程のすべての学生は、本学のいずれかの学部に属しながら、それぞれが福祉や教育などの専門的な資格の取得を目指しており、あわせて仏教の修学にも励んでいるのです。そして卒業後の将来は、寺院の住職のみならず、同時に社会福祉士や公認心理士、あるいは小・中・高等学校教員などの専門職を活かして、地域に貢献する寺院と宗侶となるべく、夢をもって学んでいます。すなわち、社会的実践と学問の一体を理想とする「行学一如」の具現化された学修が、この仏教専修科にはあるのです。私たちはそれを「**実学仏教**」の学びとよんでいます。

現代社会における重要な資格やスキルを習得しながら、基本的な仏教の知識を身につけ、自利・利他円満の教えを人生に活かしてゆく——こうした未来を見据えた仏教の学び方こそ、東北福祉大学仏教専修科の特色なのです。

東北福祉大学仏教専修科で「実学仏教」を学ぶ —学園創立 150 周年を超えて—

学生は一人一人、それぞれ自身の夢見る将来のキャリアや自坊の状況が異なります。皆様のキャリアにおける選択肢の一つとして、以下のような特長のある東北福祉大学仏教専修科を是非ともご検討ください。

🌸 伝統ある仏教専修科

東北福祉大学の母体である梅檀学園は曹洞宗専門学支校を起源とします。旧制梅檀中学、新制梅檀高校を経て、宗門はもちろん、福祉やスポーツなど、社会で多様に活躍する数多の人材を輩出してきたその伝統は 150 年を誇ります。皆さんもその一員となってその伝統を担い、一緒にそれを超えていきませんか？



🌸 多様な専攻、資格と両立する「実学仏教」

本学の学生は仏教以外の専攻を重点的に学んで関連資格を取得すると同時に、仏教専修科で仏教や曹洞宗宗学も学びます。社会福祉学科なら社会福祉士や精神保健福祉士（共に受験資格）、介護福祉士、保育士、福祉心理学科なら公認心理士（受験資格の一部）や養護教諭、他学科でも防災士や司書など、社会で活躍する多彩な資格を取得できます。専攻や資格と仏教の学びを両輪とし、寺院運営にも活きる「実学仏教」を学べます。（各資格取得については本学 HP でご確認ください）

🌸 大学設置の仏教専修科ならではの本格的な学び

本学仏教専修科では、仏教や宗学の学術研究者による本格的講義を学べます。また実技も、本山修行経験、指導経験豊富な教員の指導による、実際の法要参加機会に基づく Project Based Learning でしっかりと実践的に学べ、将来の僧堂修行に向けた準備が可能です。



🌸 充実した教育施設と機会

本学には本格的な僧堂や法堂があり、実践的に実技を学べます。僧堂で臘八摂心、法堂で有志による朝課も実施しています。一般学生参加の降誕会など三仏忌法要では配役を担います。更に大学関連施設での施食会供養や研修旅行など地域や社会に展開した多様な学びの機会があります。



🌸 風通しの良いアットホームな雰囲気

在学生や卒業生は仏教専修科の雰囲気の良さを指摘します。少人数教育のために学生と教員の距離が近く、様々な相談や個々のニーズに応じた本格的な学びも実現可能です。学生同士もサークルや部活動のような雰囲気で、資格取得のための学びと両立した、メリハリの利いた学生生活を送っています。

曹洞宗寺院徒弟の入学制度について

「仏教専修科で曹洞宗二等教師資格をめざす者」対象の学校推薦型選抜【公募制】があります。曹洞宗得度済み僧籍登録証を出願時に提出ください。詳しくは入学センターまでお問い合わせください。

曹洞宗教師資格の取得について

仏教専修科とは、曹洞宗教育規程に基づき設置された曹洞宗教師資格（寺院住職）取得に繋がる養成機関です。仏教専修科では宗門の教師に必要な①宗乗・余乗の知識、②本宗僧侶としての使命の自覚、③宗門の行持・威儀・作法、を学びます。1～4年の各年次に週3回の講義が追加されますが、各自の時間割と調整して専攻の学びや資格取得、部活動と両立可能になっています。宗制による特殊安居を在学中に3回以上了じ、仏教専修科を修了して大学を卒業すれば、自坊で都合等がある場合は卒業と同時に二等教師資格を取得することも可能です。

仏教専修科で学ぶためには？

曹洞宗寺院の子弟・徒弟で、本学通学制4学部9学科*か通信教育部の正規の学籍を有する者は仏教専修科に入学できます（申込制）。編入生も入学は可能ですが、カリキュラム上、資格取得には4年間の在籍が必要です。曹洞宗僧籍を有せずとも、留学生や仏教を学ぶ意識の高い学生は【科目等履修生】として学ぶこともできます。

*看護、リハビリ、教育の各学科は実習時間等の関係があるため、必ず受験前にご相談ください。

東北福祉大学 仏教専修科の学びの特長 — 「実学仏教」を学ぶ—

①座学：宗乗・余乗の知識

仏教学が専門の研究者から、大学ならではの高レベルの知識を学年別少人数クラスで学びます。学生が仏教学専攻でない為、他宗門学校仏教専修科より多めの単位数をしっかりと学びます。（科目はHP参照）

②実技：宗門の行持・威儀・作法

本格的な法堂や僧堂を活用して実践的に実技を学びます。着物の着方から、基本進退、法要配役、法要準備なども学べます。接心では偈文や飯台も体験しますし、有志による朝課もあり、規則正しい生活習慣づくりに配慮しています。将来の上山に向けた両本山拝登の機会もあります。

③社会貢献：本宗僧侶としての使命の自覚、実智

仏教専修科では、日々の学びを専修科外や学外でも実践します。全新生参加の降誕会など三仏忌等の各種法要への随喜、大学関連施設に出張しての施食会供養、被災地ボランティアなど、多彩な活動を通じて菩提心の実智を学びます。



多様な入学経路

高校新卒以外にも、他大学卒業後に資格取得のために本学へ編入学、社会人を経て入学、本山修行後に通信教育部等に入学など、多様な学生が正科生にはいます。科目等履修生には外国人留学生もいます。皆さんのライフキャリアに沿って、仏教専修科を組み入れていただければと思います。

卒業後について

卒業後は曹洞宗僧侶を目指す学生が大半ですが、その経路も多様です。在学中に特殊安居を了じて卒業と同時に教師資格を取得する学生もいますが、多くは卒業直後に僧堂へ上山します。他にも、取得した資格等を利用して企業や学校、福祉施設や各種公共団体に就職し、その後上山する学生もいます。更には研究活動を行うべく大学院へ進学する学生もおり、卒業生は多方面で活躍しています。

卒業生の声

求道心を育む



松根大地 禅兄
産業福祉学科卒
泉岳寺（東京都）住持

小学生より空手に親しみ、学道と空手の両立が出来る学舎を求めておりましたところ、東北福祉大学社会福祉学部産業福祉学科にご縁を頂き、学ばせて頂きました。仏教専修科で仏道を学びながら社会福祉学や空手に打ち込む日々は目まぐるしくもありましたが、非常に充実した学びの場でした。特に宗門でも名だたる老師方が教鞭を執られ、その教えを乞うことができたのは、東北福祉大学ならではの思いです。

また仏教学だけではなく、法学や社会学など様々な知識に触れることができ、実社会で生きる一人の人間としての基礎も学ばせて頂きました。学生時代は一つひとつの学びが点となっていましたが、時を経て線で繋がり、今の自分を形作っていることを実感しております。

私の仏道への求道心はまさに大学4年間の経験から育まれました。学生特有のおおらかさと体力、何でも吸収しようという貪欲さと無鉄砲さを以て猪突猛進していた私が、壁にぶつかり悩み苦しんだ時に多くの老師・先生が手を差し伸べてくださいました。夏休みにご自坊にて坐禅の指導を頂いたり、『正法眼蔵』を共に通読頂いたりと求めるものを求める時に差し出してくださったことは大変有り難く、感謝しております。卒業と同時に仏道の教えを生涯をかけて学んでみたいと大本山永平寺に上山し、求道心を持って修行に励めたのは、在学時の出会いがあったからこそと思っております。

これから学舎を探す皆さんには、ぜひ様々な学問に触れて多くの点と線を会得頂きたいと思っております。お励みください。

仏教専修科の学びと大学院進学



小林信眼 禅兄
福祉心理学科、
大学院総合福祉学研究科卒
徳本寺（宮城県）副住職

自分の生き難さを研究したくて、父がOBだったので東北福祉大の心理学科に進学し仏教専修科にも入りました。大学では心理学を一生懸命学ぶと同時に、剣道部に所属しました。仏教専修科も加わって大学生活は大変でしたが、担当の先生のおかげで何とか両立できました。学部だけでは心理学の知識の学びが足りないと感じ、クライアントに提供する「形」を身に付けたいと考えて大学院に進学しました。院生時代の経験で自分が一番やりたいことをできるのはお坊さんだと気付き、上山を決めました。

着物の着方、偈文、進退等は仏教専修科で既に学んでいたもので、余裕をもって修行ができました。臘八摂心も大学内で体験していたのである程度の余裕が生まれ、他安居者との違いが様々な場面で出ました。鼓鉦の仕方などは本山では詳しく教えてくれないので、在学中に習っていて本当に良かったです。仏教専修科での学びは将来絶対に役に立つと断言できます。特に先生方が親身で、学生に寄り添った学びができると感じます。何も知らないところから指導を頂けるので、本当に何もできなくても大丈夫です。寺に生まれたご縁がある方、自主的に発心なされた方、どうか気軽に東北福祉大学仏教専修科に足をお運びください。

在学中の特殊安居とその後の本安居



大川原啓介 禅兄
（社会福祉学科卒）
徳成寺（宮城県）住職

自坊の事情で卒業直後に教師資格が必要で、また高校時代から福祉全般に興味もあったので特殊安居（1ヶ月の本山修行）が出来る東北福祉大学社会福祉学科に入学し、仏教専修科を選択しました。在学中は、将来住職となった時の寺院防災マニュアル整備等の防災対策、地域における寺院のあり方を念頭に、防災士資格も取得しました。大学1年の春休みに初めて特殊安居に行かせていただきましたが、当時はとても辛かったです。

特殊安居は独特な修行で本安居の人からは「学生のうちに1ヶ月程の修行を行い、また娑婆に戻っての繰り返しは大変じゃないの」とよく言われました。在学中に特殊安居を合計3回経験しましたが、今では貴重な良い経験です。僧侶としての基礎は3回の特殊安居で身につきましたが、それで教師資格も取得可能でした。しかし自坊の事情で1年なら安居できることとなり、もっと修業したかったことから卒業後も總持寺寺院に上山しました。卒業後の本山での安居経験と、東日本大震災時の1週間の停電と3週間の断水の経験で感じたことを踏まえ、今では日常の有り難みをとて強く感じています。

東北福祉大学仏教専修科は仏教を広く学べます。法式の授業があるので、法要もある程度水準まで学べます。曹洞宗の僧侶として必要な法要知識のインプットとアウトプット両方ができると実感しています。先生との距離がとて密な環境であること、宗門の先生方に質問しやすい環境が整っているのが東北福祉大学仏教専修科の魅力であると感じます。

仏教専修科の一年



4月 開講式

新入生を迎え、新年度が始まります



5月 降誕会

全新生の前で降誕会を務めます



8月 施食会法要

関連高齢者施設でのお盆供養に参加



9月 両祖忌

学生も三仏忌法要の配役を担います



10月 達磨忌

この頃には一年生も配役を担います



12月 臘八接心

コロナ前は泊まり込みで只管打坐



12月 成道会

十八拝差定配役を何度も経験します



2月 涅槃会

卒業生が涅槃会で維那を務めます



2月 卒業生上山壮行会

上山する卒業生を皆で送ります



3月 東日本大震災慰霊法要

忘れられません、忘れません

この他にも、不定期ですが震災ボランティアなどの社会貢献を行ったり、研修旅行に出かけたりと多彩な行事があります。

Q&Aにつきましては、下記QRコードより仏教専修科ホームページで御覧ください。専修科入学方法や入試等の詳細をお聞きになりたい方は、下記QRコードよりメールで個別にご相談ください。



仏教専修科 HP



仏教専修科問い合わせ

 東北福祉大学 仏教専修科

〒981-8522 宮城県仙台市青葉区国見1-8-1

T E L : 022-717-3359 (実学臨床教育推進室よりお問い合わせください)

F A X : 022-301-1293

E-mail : bussen@tfu.ac.jp